

抄
録

腎盂腎炎ノ際ニ於ケル傳染竈

(Jour. Am. Med. Assn., Vol. 77, No. 19, p. 1475.)

パンパス及ビマイサー氏ハ、腎盂腎炎ノ患者ニテ、其傳染ノ原因ト思ハル、病竈ヨリ細菌ノ培養ヲナシテ、動物ニ注射シ、是等細菌ノ尿路ヲ胃ス部位ヲ檢シ、次ノ如ク述ベタリ。八十二匹ノ家兎ニ、腎盂腎炎ニカ、レル患者ノ齒、扁桃腺、尿及ビ血液中ヨリ得タル綠色連鎖球菌ノ培養ヲ注射セシニ、六十三匹ニテ腎臟ノ變化ヲ起シタリ。之ニヨリテ見レバ、腎盂腎炎ハ屢々連鎖球菌ノ存スル傳染竈ニ基クコトヲ示スモノナリト信ズ。本菌ハ尿路ヲ特ニ好ミテ胃スモノニシテ、普通存在シテ且一般ニ原因ト信ゼラル、大腸菌ハ、續發的意義ノモノト信ゼントス。(廣瀨抄)

蛋白過敏性ト疾病ノ原因上ニ
於ケル其意義

(Jour. Am. Med. Assn., Vol. 77, No. 20, p. 1541.)

ロングコーブ氏ハ、次ノ如ク結論セリ。即チ一定ノ人ハ、通常蛋白質或ハ蛋白質ヲ含ム或ル物質ニ對シテ特異質ヲ有ス、然レドモ其物質ハ非蛋白性ノ物質ナルコトアリ。一定ノ状態ニテ是等ノ物質ニ觸ルレバ、枯草熱、喘息、胃腸障害、濕疹、蕁麻疹或ハ其他ノ皮膚症狀ヲ起スコトアリ。通常是等ノ疾病ノ症狀ハ生涯中早ク現ハレ、其物質ニ初メテ遭遇スル時ニ認ムルコトヲ得ベシ。此際特異質ヲ起サシムル組織ノ性質ヲ遺傳スル一定ノ傾向アルコトハ疑フベカラザル所ナリ。之ハ體液或ハ細胞ノ状態ニヨルモノニシテ、其状態ニヨリテハ、其等ト異種蛋白質ト強固ニ結合セシムルモノナリ。患者ニ特有ナル點ハ、其一定ノ物質ヲ用フレバ、蕁麻疹ヲ起シテ、皮膚ノ反應スルニアリ。是等ノ反應ハ非常ニ固有ナルレドモ、種々ノ蛋白質ヲ以テ多數ニ生ゼシムルコトヲ得ベシ。馬血清ヲ皮下或ハ靜脈内ニ注射シタル健康人ハ、血清病ニ對スル感受性ニ於テ相當ノ差異ヲ示スモノナリ。之ハ血清ノ量ニ關係セズ、組織細胞及ビ體液ノ状態ニ關係ス、即チ感受性アル人ハ、身體細胞ト異種血清ノ迅速ナル結合ヲ起サシムル状態ニアリ。少數ノ不感受性ノ者ニテハ、

細胞及ビ體液ハ、其結合制セラル、カ或ハ全ク起ラズシテ、爲メニ血清病發生セザル狀態ニアリ。「ヒスタミン」ノ如キ蛋白質ノ有毒性誘導體ノ若干ヲ注射或ハ吸收セシメテ、健康人ニモ起サシメ得ル障害ハ、上記非常ニ特有ナル反應ニ對シテ、本性上酷似シタルモノナリ。

(廣瀨抄)

所謂收縮期前雜音

(*Jour. Am. Med. Assn., Vol. 77, No. 21, p. 1648.*)

リード氏ハ、結論トシテ、次ノ如ク述ベタリ。

一、銳キ第一音或ハ縮期雜音ト成ル漸次強盛スル雜音ハ、實際時間上ヨリ云ハバ、收縮期ノ初メニ存スル爲メニ、惡シキ名稱ナレドモ、之ヲ收縮期前ト稱セラレタリ。

二、所謂收縮期前雜音ハ室ノ收縮ニ際シ、僧帽瓣ヲ通シ血液ノ逆流スルニ基クモノナリ。

三、之ハ從來多數ノ人ノ有スル說ナリ。

四、心房ノ收縮ニ基ク說ニ反對スル點ハ、其性質、時間、其レト次ノ心音或ハ雜音ノ間ニ間歇ナキコト、心房性顫動ノ時ニ存スルコト及ビ時トシテ真正ノ收縮期前ニ

抄 錄

他ノ雜音ノ起ルコトアル點等ナリ。

五、此雜音ハ屢々僧帽瓣孔ノ狹窄アル時ニ認メラレドモ、僧帽瓣孔ノ狹窄セザル狀態ニモ存スルコトアリ。

六、所謂收縮期前雜音ノ眞ノ性質ヲ解誤セル爲メニ、心臟病ノ診斷ニ誤ヲ來スニ至レリ。

七、所謂收縮期前雜音ト眞正收縮期前雜音トノ二ツノ異ナレル雜音アリ。後者ハ少ナクシテ見出シ難シ。此二ツノ雜音ハ混同セラレシモノナルベシ。(廣瀨抄)

急性腹部疾患ニ見ル聽診症狀

(*Am. Jour. Med. Sc., Vol. CLXII, No. 5, p. 712.*)

普通腹部ノ聽診ニテハ、所見ナケレドモ、或ル場合ニハ、心音及ビ吸氣音ヲ腹壁上ヨリ聽所スルコトアリテ、心音ハ此時遠ク聞エテ、恰モ胎兒心音ノ如ク、又吸氣音ハ、時トシテハ安靜呼吸ニテモ聞ユレドモ、深吸氣丈ノ時ニ聞ユルコトアリトテ、之レヲ種々ノ患者ニテ檢シ、アシユナー氏ハ次ノ如ク述ベタリ。即チ腹膜腔ニ膿性或ハ漿液膿性ノ浸出物アル急性狀態ニテハ、其多數ニ、腹部ノ聽診上、上記ノ症狀陽性ナリ。二十例中、十八例ニ

八五七

陽性ニシテ、一例ニテハ疑ハシク、一例ニテハ陰性ナリキ。陰性ノモノハ幼兒ナリキ。又二例丈ニ、濁音ノ變換ヲ證明シタリ。八例ニテハ、症狀ト普通ノ理學的検査法ニテハ、腹膜炎ノ存在ヲ示サザリキ。本徵候ヲ現ハシ、腹膜炎ヲ示サル二例ニテ、著シキ腸ノ膨脹アリキ。腹膜炎ナキ腸ノ膨脹ノ他ノ三例ニテハ、本徵候存在セザリキ。本徵候ノ價値ニ付テハ、尙多クノ觀察ヲ要スベシ。喇叭管妊娠ノ破裂ニヨル腹膜内出血ノ一例ニテ、此徵候アリキ。斯カル關係上、腹部外傷ノ場合ニ於テ、興味アルモノナルベシ。(廣瀬抄)

嗜眠性腦炎ノ脊髓前角炎ニ對スル關係ニ就テノ研究補遺

(Am. Jour. Med. Sc., Vol. CLXII, No. 5, p. 715.)

脊髓前角炎回復期患者ノ血清ガ脊髓前角炎病毒ヲ中和シ、健康人血清ニ其功ナキコトハ、既知ノコトニ屬ス。ニューステツター、ラーキン及ビバンザーフ氏ハ嗜眠性腦炎回復期患者ノ血清ト脊髓前角炎病毒トノ混合物ヲ、猿ノ腦内ニ注射シテ實驗シ、次ノ結論ヲナシタリ。

五匹ノ猿ニ、五例ノ嗜眠性腦炎回復期患者(内一例ハ推定的ノモノ)ノ血清ヲ用ヒシニ、悉ク脊髓前角炎ヲ起サザリキ。此事實ハ諸家ノナシタル脊髓前角炎回復期患者血清ノ脊髓前角炎病毒ヲ中和スル實驗ト比較スレバ都合ヨキ結果ナリ。(廣瀬抄)

心房性顫動ノ「キニヂン」療法

(Jour. Am. Med. Assn., Vol. 77, No. 23, p. 1797.)

ヒューレットト及ビスウイーニー氏ハ、「キニヂン」ヲ心房性顫動ノ十一例ニ用ヒ、次ノ如ク結論セリ。用法ハ、初メ一日ハ〇・ニヲ一日三四回、其後ハ〇・四ヲ一日三回又漸次増量シテ一日四五回ニ與ヘ、然シ一日量二・〇ヲ越ヘザル程度ニ注意セリ。

一、「キニヂン」ハ心房性顫動ノ一定數ニテ心臟ノ調節ヲ正常ニ回復ス。

二、新ラシク起リシ場合ニハ回復シ易シ。

三、調節正常トナラバ、屢々一般狀態善良トナリ、時トシテハ「ヂキタリス」ガ代價ヲ支持シ得ザリシ場合ニテモ、著シキ回復ヲ見ルコトアリ。

四、「キニヂン」ハ、或ル場合ニ、惡シキ症狀ヲ起スコトアリテ、其使用中、代償機上ニ、不良ノ影響ヲ與フルコトアリ。

五、「キニヂン」ヲ心臟病患者ニ用フル際、危險ヲ伴フコトアレバ、只代償機障害ヲ他ノ方法ニテ處置セシ後及ビ心臟状態ヲ精密ニ診斷セシ後ニ、注意深キ觀察ヲナシツ、用フベシ。

六、「キニヂン」ト「ヂキタリス」ノ併用ハ恐ラク避クベキモノナリ。(廣瀬抄)

末期傳染ニ對スル食細胞作用ノ實驗的研究

(Bull. Johns Hopkins Hosp., Vol. XXXII, No. 369, p. 350.)

クロツス氏ハ、病理解剖上、屢々著シキ食細胞作用ノ存スルコトアルヨリ、時トシテ破壊的傳染ニ食細胞作用ノ減退ヲ伴フコトハ、通常想像セラル、如ク、殆ド一般的ナラザルベシト想像シ、實驗ヲ重ネテ、次ノ如ク述ベタリ。

一、致命的傳染ノ末期ニ於テモ、原發性傳染ニ關係ナ

キ細菌ニ對スル食細胞作用ノ減退ヲ證明セザリキ。此事ハ末期傳染ガ、食細胞作用ノ消失ノ結果トシテ、原發性ニ起ラザルコトヲ示スモノナルベシ。

二、特種傳染病菌ニ對スル「オブソニン」指數ノ減退ハ致命的傳染ニ於テ、常ニ存スル現象ナラズ。

三、致命的傳染ニ於ケル死ハ、「オブソニン」作用ノ最も減退セル時期ニ、常ニ起ルモノニアラズ。(廣瀬抄)

尿道淋疾治療ノ標準ニ就イテ

The Standard of Cure in Gonorrhoea:

A. Reith Fraser, The Journal of Urology Vol V, No. 5.

如何ニシテ、淋疾全治ノ標準ヲ定メルカハ、中々困難ナル問題ニシテ、泌尿器科醫ハ各々自分勝手ナ標準ヲ定ム、而シテ此ノ問題ノ目的トスル所ハ凡ソ次ノ如シ。

一、吾人自ラ、患者ガ全治セルコトヲ確信シ得ル様ニスルタメ

二、吾人自ラ、合理的ニ疾病ノ再發セザルコトヲ保證シ得ルコト

三、患者ニ對シ、ソノ泌尿器系ヨリハ最早傳染力ノ消失セルコトヲ保證スルコト

四、患者ヲシテ、出來ルダケ苦痛ヲ感ジナイ様ニスル
タメ

五、患者ニ對シ可成早く、全治ヲ宣言シ得ルコト

六、實行シ得ベキ標準ヲ定メ、次テ患者ヲ可成、無意

味ニ治療セザルコト

而シテ、淋疾全治ノ標準ヲ定ムルニ當リ、從來應用セラレタル方法種々アリ、即チ尿道分泌物及ビ尿ノ検査、合併症ノ陰性ナルコト、挑發性「ワクチン」ノ應用、淋菌ノ探檢、尿道鏡検査法、補體結合試驗、所謂決定的検査等。

最後ニ、余ハ次ノ如キ標準ヲ理想的ナリト思フ。

一、臨牀的症狀ノ消失セルコト、此問題ハ、攝護腺、精囊、輸精管、辜丸、會陰ノ検査、尿道ノ擴張試驗、外尿道口ノ排膿消退、尿濁ノ消失等ヲ證明シ得タル場合ニ於テ、初メテ確實トナル。

二、十二日間ハ、患者ヲ觀察スルコト、シ、ソノ間ハ活潑ナル運動ヲ命ジ、若シ外來患者ナルトキハ、性交、活動寫眞、又ハ物凄キ小説ノ如キ、精神のニ有害ナルモノヲ禁ズ、而シテ、分泌物ナク、尿ハ二杯試驗ニヨリ透

明ナルヲ要ス、併シ尿中少量ノ淋糸ノ存在ハ無視シテ可ナリ。

三、治療ヲ停止シ、二三日後、一定量ノ挑發性「ワクチン」ヲ注射スルモ(一〇〇、〇〇〇、〇〇〇)羅患部ニ反應ヲ起サザルコト。

四、一定太ノ金屬「ブヂー」ヲ、第四日及ビ第十二日ニ尿道内ニ挿入シ、尿道ヲ靜カニ、ソノ上ヨリ摩擦シ、ソノ際、尿道ヨリ分泌物ナキコト、ソノ後尿變化セザルコトヲ要ス。

五、三箇月後及ビ六箇月後ニ再ビ患者ヲ來ラシメ、次ノ検査ヲ行フ。

A トンブソン氏尿試驗

B 攝護腺及ビ精囊ノ「マツサーヂ」ヲ行ヒ、ソノ後

ニ分泌物ヲ検査スルコト

C 完全ナル一般ノ系統的検査

D 尿道外口ヨリ膀胱頸部マデノ検査、此ハギヨン氏ノ有頭消息子、金屬「ブヂー」、又特別ノ場合ニハ、尿道鏡検査ヲ行フ、若シ此ノ検査ノ結果不確實ナルトキハ、挑發性「ワクチン」ヲ注射ス

カ、ル標準ヲ定ムルニ當リ、其ノ程度ヲ失スル時ハ、屢々恐ルベキ結果ヲ來ス、餘リ嚴格ニ失スル時ハ、例ヘバ神經衰弱症トナリ、心身共ニ衰弱シ、全治ノ希望ヲ失フニ至ル、又餘リ輕緩ニ失スルトキハ、家庭的ノ悲劇ヲ起スコトアリ、即チ全治ト信ゼル獨身者結婚シテ、潜伏セル淋菌活動性トナリ、從ツテ、遂ニソノ配偶者ヲ疑フニ至ル、蓋シ、自己ノ疾病ハ全治ヤリト確信シ居レバナリ。(小野抄)

急性胃又ハ十二指腸出血ノ外科的

療法

Wiener Klin. Wochenschrift, Aug. 18, 1921, Nr. 33.

フ井ンステレルハ急性胃又ハ十二指腸出血ノ四十例ヲ外科的ニ治療シ其十例ヲ除クノ外ハ凡テ全治セルヲ報告ス。即チ十二指腸潰瘍ヨリスル出血ノ際ニハ、胃腸吻合ヲ行ヒ、幽門部ヲ結紮シ、出血部位ヲ栓塞壓迫スルヲ法トシテ、此十例中六例ハ全治シ、二例ハ手術ノ時期既ニ遲キ爲、奏效セズ、一例ハ十時間内ニ穿孔ヲ來シ、一例ハ「タンボン」不充分ノ爲メ何レモ不結果ニ終リシト。

抄 録

其他廣汎ナル切除ハ胃潰瘍ノ九例、十二指腸潰瘍ノ十六例ニ施サレ、此中二十二例ハ全治シ、三例ハ死亡セリト。(T生抄)

「チフス」療法トシテ「テレビン」油ノ應用

Melitz, Klink, Berlin. Aug. 14, 1921, 17, Nr. 33.

ブレンネル氏ハ「チフス」ノ療法トシテ新鮮ナル空氣ト「テレビン」油ノ效果ヲ稱揚シ、殊ニ「テレビン」油ノ應用ヲ獎ム。即チ氏ハ「チフス」患者ノ百五十例ニ於テ、「テレビン」油ヲ一時間毎ニ〇・〇五乃至〇・一耗ヲ綿撒絲ニ浸シテ晝夜左右鼻孔ニ挿入セルモノニシテ、時ニ屢ニ二十四時間内ニ二〇・〇耗ヲ用ヒシコトモアリシト。而シテ此結果ハ頗良好ニシテ、發病後五日以内ニ應用セル際ニハ屢其經過ヲ短縮セシメ得タルノミナラズ、他ノ症例ニ於テモ其治療ヲ見ルコト例規ナリトナシ、此理由ハ「テレビン」油ガ酸化ヲ促進シ、是ガ「チフス」菌及ビ其産物ヲ破壊シ、且又組織ノ再成ヲ助クルニ在リト。(T生抄)

妊娠中ノ性交

Munch. Mediz. Wochenschr. Aug. 26, 1921, 68, Nr. 31.

ルーゲ氏ハ妊娠中ノ性交ニ就テハ、從來醫師間ニモ其説區々ニシテ、或學者(例之バヅムノ如キ)ハ全妊娠期間中性交ヲ禁ズルモ、多クハ、其前半期ハ適度ニ之ヲ行フテ害無ク、後半期ハ之ヲ禁ジ、又ハ人ニヨリテハ出産前四箇月迄或ハ二箇月迄之ヲ許シ、或ハ又二週間乃至四週間迄ハ可ナリトスル人モアリトナシ、氏ハベルリンノ大學婦人科臨牀ニ於テ四百十名ノ產褥婦ニ就テ調査セル比較的信頼ニ足ル成績ヲ見ルニ、其結果ハ意外ニシテ、四百十名ノ婦人中、全妊娠中禁慾セルモノ一名モ無ク、而モ其三百二十二名(七十八・五%)ハ、出産前ノ二箇月間ニ性交ヲ營ミシコト明ニシテ、此中ニテモ最後ノ四週間内ニ此事アリシモノ全四百十名中ノ五十三・九%ニ相當シ、此中又最終一週間ニ行ヒシモノハ全數ノ三十一%ニ當タリ、且又最後ノ三日間内ノモノ二十%、出産當日ノモノ九・五%ヲ算セルヲ見、而モ其頻度ハ一週二回、時ニ其以上ノモノ最多クシテ、六十%ヲ占メ三回或ハ其以上ノモノ

ノ二十四・六%ニ當ルヲ知レリト。而シテルーゲ氏ハ尙ホ是等性交ノ母子ニ及ボス影響ヲ考究シ、妊娠終末月ニ近キ際ニ於ケル性交ハ、母及ビ胎兒ニ向ツテ障害アルコト明ニシテ、爲メニ早期羊膜破裂、出血、早産又ハ出産前又ハ後ノ發熱等ヲ招キ易シトナシ、前記出産前三日間内ニ交接セシ八十二名中ノ十七%ハ數日乃至數週間連續セル高熱ヲ發セシト。(T生抄)